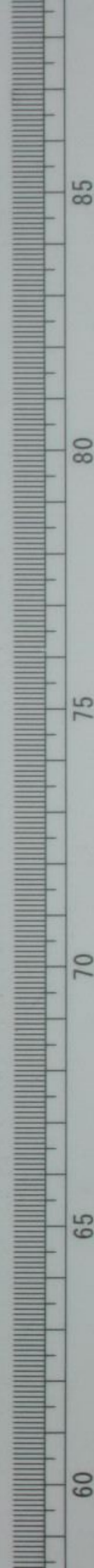
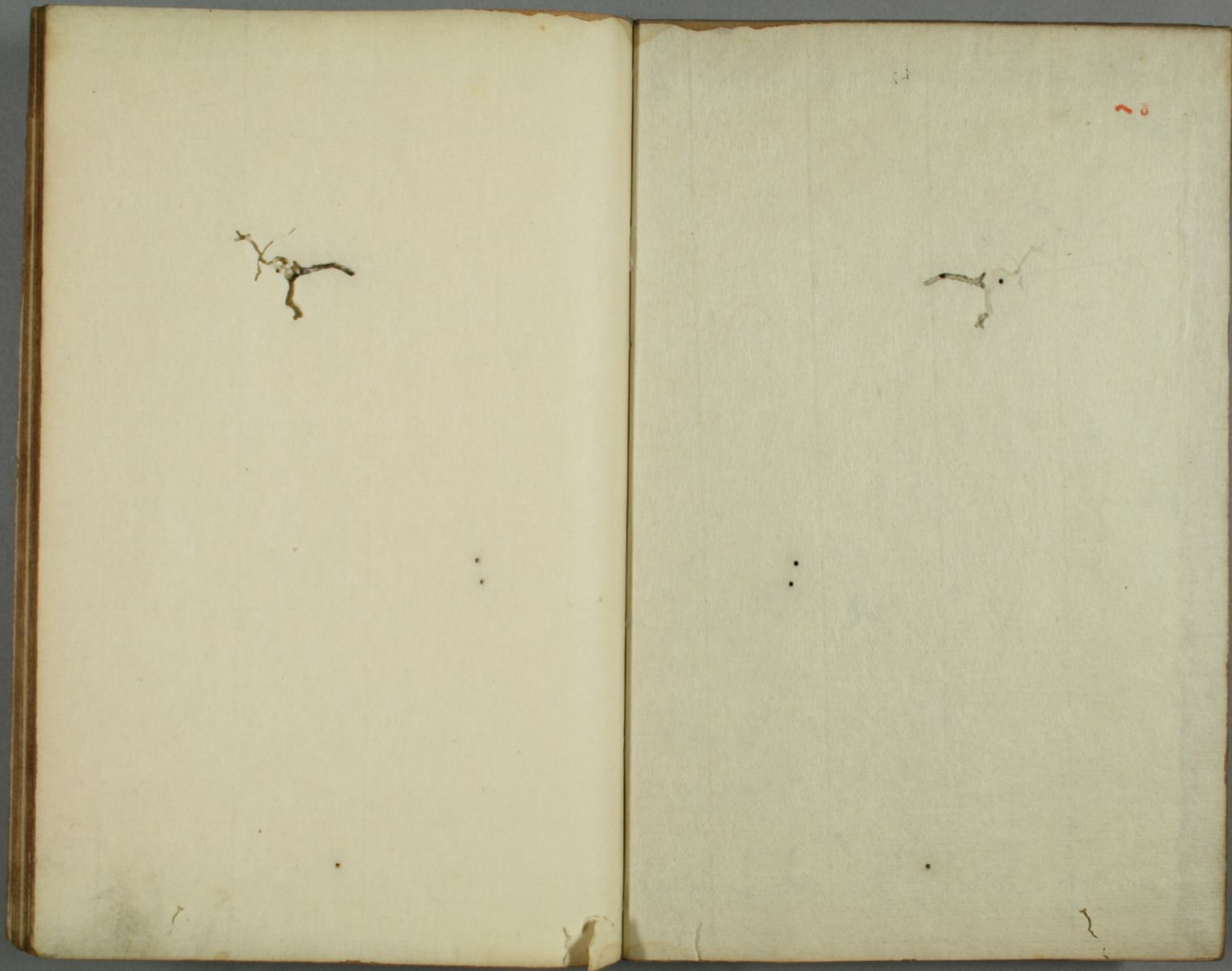




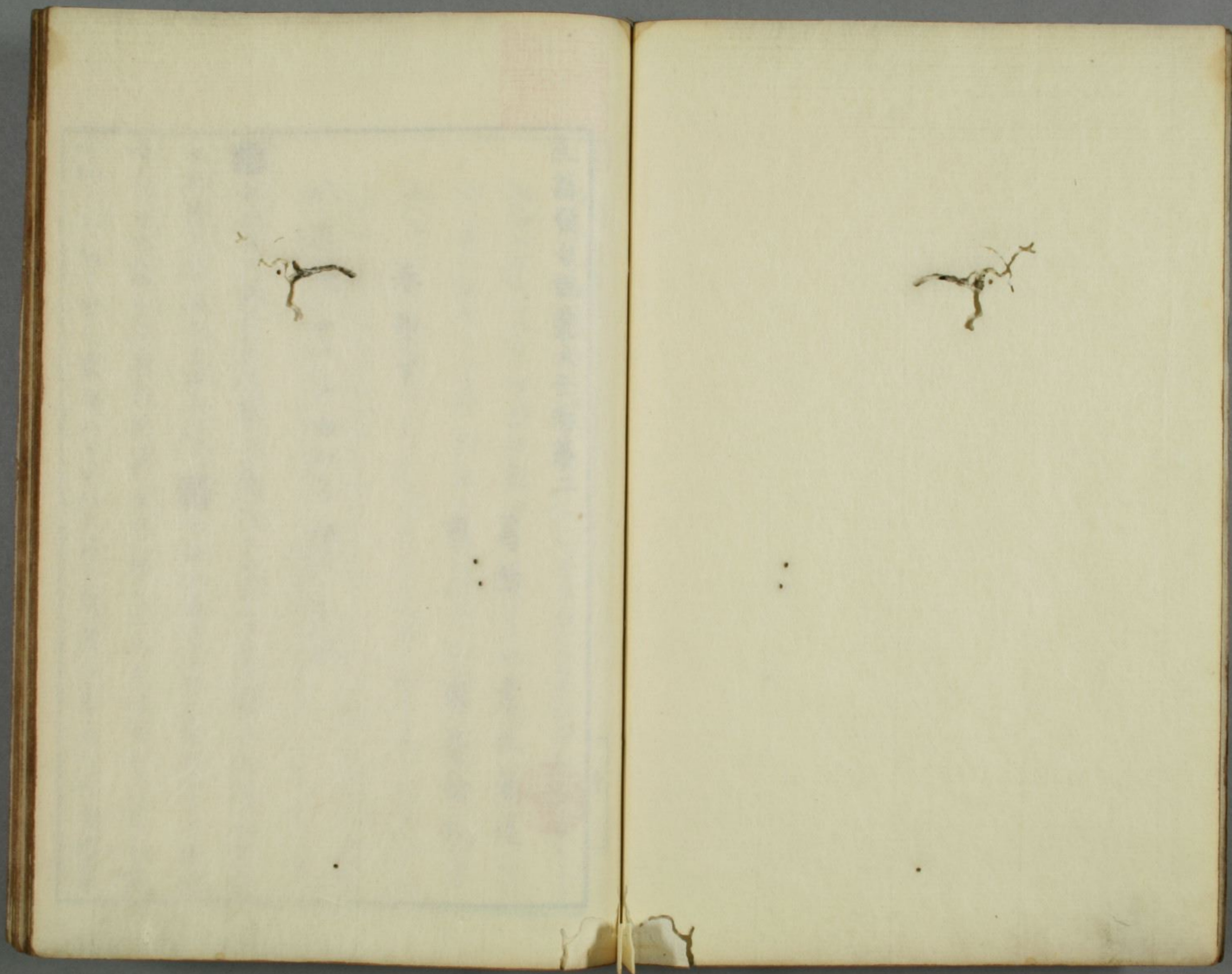
祝業大全
春之部下

利
1061
2











蕉翁發句說叢大全卷第二

葛飭 素丸著述



南臺檢校

春部下

八九間、空よあつちの柳、のり

袋

云此句ハ柳の系以風よ魔きくちりさあ八九間と云に

袋

あは降と依極しよ久也也 **林** 云あつちの柳の系乃静さハ八九間も云にあつちの

時く日の陰りハ出た柳の系乃静さハ八九間も云にあつちの

心比し何となく景曲のそとに居て或僧の素丸と云句は



ちりすやと予け句の意味を云ふ此眼蓋の目此臨乃ちりすの
 りりくと烟を風傳へしとありて答へりて其傳ハ梅柳ハハ
 九間よりてるさう詩人の常とてんハ九間といひるさう息
 中此のつしきり予不也あてさうん行丁寄 **解** 此句を出入
説 **袋** 予不也あてさうん行丁寄 **林** 而乃ほまに臨る傳へしと
 及多ぬるぬるあてのこ記さる却てさうん行丁寄客僧の妄説也
 堪笑なり本據をさうでしき人の句ハ評しが此のめい況
 や蘇の句さうん行丁寄河原よ梅柳のハ九間去てるさうあや
 出可い下と及と世俗の談さうん行丁寄此句古人の説をさあり
 今奉て初輩のさうに記さる○去来抄曰素行曰此句ハさうん行丁寄

此ハ初の臨る傳へしと西華坊曰此句ハ物語あり
 去来曰我もり坊曰吾先あり木曾塚乃舊草にありて
 或人廿句を問曰不雅此柳ハ白壁の土飛出方此松皮膏乃
 ちりり中校さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄
 て春雨の臨る傳へしと及と世俗の談さうん行丁寄此句古人の説をさあり
 さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄
 此ハ初の臨る傳へしと西華坊曰此句ハ物語あり
 去来曰我もり坊曰吾先あり木曾塚乃舊草にありて
 或人廿句を問曰不雅此柳ハ白壁の土飛出方此松皮膏乃
 ちりり中校さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄
 て春雨の臨る傳へしと及と世俗の談さうん行丁寄此句古人の説をさあり
 さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄
 此ハ初の臨る傳へしと西華坊曰此句ハ物語あり
 去来曰我もり坊曰吾先あり木曾塚乃舊草にありて
 或人廿句を問曰不雅此柳ハ白壁の土飛出方此松皮膏乃
 ちりり中校さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄
 て春雨の臨る傳へしと及と世俗の談さうん行丁寄此句古人の説をさあり
 さうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄此ハ八九間もさうん行丁寄

間の柳とる風情はひひこふゆりしうこしうたはれよ
 大佛のあふりやうもやけむと中翁くこかりそく若ん
 好つりは色の俳諧をえり事其人の胸中を草鞋くきて
 二に命しもうけりりたらしよちうこつアやまりはれし
 名宗高達の人とくとも能はくつひあひのしひ人を
 えり事其人よ透ふハ馬に夢家人とりよ命しここの説秘
 飛つりとりとも。安注よ初輩のまよひるを歌き今
 とくつし。かりを命きつらんと。詩人の法をいふ賣僧ハ片
 腹つとき事也。○陶淵明が歸田園居詩曰。方宅十餘畝。草
 屋八九間。榆柳蔭後簷。桃李羅堂前。しかるも

おく又をゆりしうまうの大佛の柳もかりし命し
 感偶乃吟しやうりめしん。唯ハ九間はりのありと。雨乃
 とりし俳諧と柳を雨とえり事也。○彦奇云。雨ハとて。一
 二カれとや。せのえり。春柳の系乃や。入家と。後
 妻而宿し。ひて。えり。めハ九間のと。あし。程志。雨と見
 ゆる。つし。見を。し。後。あし。此説も。ま
 持。幸。詠と。

鶯を魂し。あふり。た。柳

解。嬌柳と云。世にも假名なき。詩文。こ
 しの。嬌柳と云。世にも假名なき。詩文。こ

解 云。莊子夢。為。胡蝶。栩々然。胡蝶也。世にも。か。ふ。垣。此。柳

乃眠ふてく系垂く侍白日み作者皆胡蝶の夢といふひある
きと考し轉し〜ハ彼古事ゆ〜て故事に流るる事す〜
俳諧の莊子也〜 **袋林** 此句や出さけ

説解 大に非ずり是故事にうつり〜と云ふ也此句は一轉
る。嬌柳あり胡蝶の夢は句あり〜眠ふ〜と〜早起詠
の夢といふ故事に流るる〜奴也。柳の眠ふ〜といふ人柳の古
夏よりい〜和音連俳古今普通也。紫雲此眠も中た何れ
解〜は〜大にた〜なり。○又魏ひぬ移るる〜といふ
〜ぬたき〜と剛也。是夢多き〜ぬめる泪も〜と〜い
るぬや。句選もたまに移るる〜と何れ。寛厚温和詞優美

四

〜是涙をらむ。依てたまふ眠ふ〜用あり〜。○温叟詩話曰
不比禁中人柳終朝剩得三眠注漢苑有柳如人形魏曰人
柳一日三起三眠云夫木抄三建長八年百首奇合よ〜いこ
そ歌も外々れを折む〜枝乃ち〜ぬら〜
又柳よ鶯の〜り合せハ○白氏文集云綠絲柔弱不勝鶯楊
柳風前別有情一日三眠何大懶蘇家小女共知名世詩よく
か〜つり〜と云んも亦事〜ぬむぬ〜り鶯を魂〜〜さハ
俳家の活法〜詠の〜り〜す〜め〜る〜何〜〜〜世詩の起句より一轉
〜〜象の眠〜る〜侍柳〜と〜ハ〜い〜けぬ〜と〜翁の句す
〜〜白氏文集より出さ〜ぬ〜と〜い〜ぬ〜別〜の〜法

右述中將吳氏
卿の字あり

ありの也。句意のありけり。解めを及く。

じこく。推。どうよ。五。一。具。

解

云。疾雨や夏ゆき。しらよ。秋早。世中。うへ。我も。食を。し。詠ふ。勢ひ。あへ。頭陀。食の。旅り。よ。當戒の。一句。と。なる。へ。

袋林

此句を出して

説 世解。は。く。極。を。保。ふ。は。し。ん。ゆ。も。引。ず。の。に。

て。向上の。文章。ゆ。急。初。年。の。年。に。為。が。く。夜。く。人。の。同。く。に。倦。し。り。か。依。句。解。を。く。り。よ。は。文。章。を。勝。ら。し。め。相。受。ま。り。正。しく。注。す。る。也。古。来。う。りの。法。格。し。も。も。世。り。か。ゆ。き。さ。て。

是。も。又。解。ち。く。し。て。の。す。え。も。初。心。の。門。才。す。や。く。な。り。た。

○ 此句の支考、松嶋行脚の時談別也。五器一具。す。り。も。事。の。足。ま。は。し。り。を。善。家。と。淋。し。き。り。と。し。の。示。戒。と。花。の。吐。の。世。の。人。ゆ。き。も。き。ま。ら。う。ら。に。思。ひ。も。う。り。も。善。を。い。て。き。ん。世。益。此。令。浪。も。つ。ふ。あ。れ。う。こ。を。一。具。の。又。器。と。知。足。し。も。生。涯。や。ら。や。も。る。金。も。淋。し。か。俳。諧。の。淋。し。も。不。捨。金。よ。げ。り。流。き。げ。り。も。も。す。身。に。推。し。お。よ。か。し。慎。し。忘。部。も。修。り。も。な。り。わ。ら。り。う。り。く。の。深。長。の。歩。み。全。情。よ。開。く。登。き。し。い。み。し。乃。家。と。出。名。張。か。も。斗。叢。の。行。を。あ。た。く。ひ。く。い。事。留。り。て。俳。諧。私。り。ひ。れ。り。也。行。跡。を。わ。ら。し。食。頭。陀。の。境。界。の。引。ず。

いきばくそむいかにあかしのこりけりぬ

葛城のゆるい歌

おろかきくし花よりけり神乃顔

林 云句意ハ眼前に平よかつ地の表をたぬりや岩橋のゆえに
 りぬたらしむらしむら岩橋のゆるい歌にゆきぬ下あかきり
 してかこしき神に平のうた発句の姿あやかりけり **解** 云かつし
 きれよとの世をり世詠よわわら葛城の神を英目何よと世の
 人の口をわけて仙人の道に際とりの様とさすいと云俳諧のおし
 こかしむら其山の系抽りして岩橋の後の優婆塞の故事也

説林 川舟らきりもたえぬへとそんか毛きんて書きの
 ぐらわかしもあそむるに去後と云へ又此かのか発句
 の姿あやかりけりいづる心ぬと又此のうたあやけ古きゆり
 て藤のうたぬまへて一特一此吟なり河をえんて成の句をも
 川で古歌よりうんや此発句をか古歌の姿よりやと
 此を念まひるうたを毛しらむらしむら智恵にけりいづる
 の海よりけり歌うと海に重なる **解** 川舟一首れうしと乃
 川言めんえに面きり予按るるふこの又文字一句の粉骨り
 花の曙のうやびやちかたに射してけり形をうらまこといづる
 の字俳諧乃活面りて一句の字眼也甚深微妙也いづる神

洞とある處うす竹阿黒處も物終りぬ瓦う物といふ
の忘網より波をさし世の洞をたはしむるも洞の古を
知るべし句の如く秋の連し波はももの句選小洞は
此句の如く洞とありて是なり

鳥野めく

しつとれはさきりふさき一維子乃さき

林 云或集よりさきりた悲しとありて方是ハ鳥野の華より
吟せしむる山も此方よりとありてさきりて又うろとさきり
とをたしむる所もあはれとありて

解

云良辨僧正の弁

よかろくとほつ山乃きし此夢又ありてかめやうと
世跡よりさきり **袋** 此句は出た

説

林

引平のりり行基の世なりて存の良辨又けり

の里とるも古き行基の方なりて(○)夫木抄北七 雜九

鷄

山鳥の鳴きさきり行基并やまのりのかろくとさきり

さきり又かきとありて母とをわりて雄の飲ひさきり

と(○)山鳥と雄子とありて雄の鳴きさきり排摺乃季立なりてせん

とくすまの難と春よみだうひりて上古の山鳥とありて

行基の比ひまの物の名も詳なりて山鳥と派なりて維子なり

ゆえ又可也此句全く行基の予より出た事然るなり後の

良極ハ引用ヲ難シ。古き村叟の云。行基の世詠ト馬所山
としてのこと。さういふをなす。勅旨と云ふ。

悼 呂 九

當 歸 より 何 ら ぬ の 塚 の すゝ 草

袋 云是追悼の句。故妻を以て表ひ此句を以て他國へ去
く悔ひて故國へ遠志を送るなり。是の遠く思ふこと。又家内其色
當故を送り是の當歸へ。よみは是をいふ。一は當歸を送
るより。墳地董妻の塚。一入表ふこと。是の遠きより事。
ものこえたり。**解** 云呂九ハ出羽國羽黒の藤の人也翁の驥尾子也

て一皮武江の深川。汲麻。其は洛乃。梅花坊。不季。越人。衣更着
此初孫。中。ありて。黄泉の客。く。む。村向。ふ。云。當歸の唐の孟。蓮。詩
に。藤。蕪。亦。是。王。孫。草。莫。送。春。香。入。客。衣。藤。蕪。一。名。當。歸。此。一
字。當。歸。と。讀。く。夫。の。孫。の。わ。を。き。く。小。園。情。の。詩。に。家。に。當。歸。の。二。字
そ。以。插。す。の。ゆ。り。又。楚。辭。九。歌。曰。悲。莫。悲。兮。生。別。離。樂。莫。樂。兮。
新。相。知。け。ん。を。持。て。當。歸。の。ふ。き。給。悲。し。き。い。ち。り。い。も。け。死。別。る
夫。より。も。表。し。と。云。句。意。別。し。董。州。の。塚。に。住。く。四。を。持。せ。る。一

林 此句當歸出

說 **袋** 當歸遠志の出入。心は。其。用。か。く。在。當。歸。り。是。よ。り。可。惜
か。去。那。り。此。句。當。司。呂。九。と。い。ひ。句。ま。り。ま。事。を。知。り。可。惜

解 當帰の詩一向南に、国情と云ひ、やうに當帰の別名似、こ
うとす。又楚辭を引くとも、いづれの追悼死別の句かと。用お
らるべし。當^{ニヤニ}取^{ニヤニ}取^{ニヤニ}取^{ニヤニ}の別名注といふ全文の義、用えたりや。
秋家に云、空しく帰らざるをいふことありて、入^リか^ガ小^解し^キる^ル也。
はくは、いづれに、離別の悲より、いづれに、去^ルる^ル也。
桃花坊とて、初^{ニヤニ}革^{ニヤニ}初^{ニヤニ}也。是^レも解^ルる^ル也。又唐詩
の旅店とて、ききり也。○ 桃花坊、京一條の坊名、東を桃花
坊、西を銅駝坊と云、町の事也。又、拾芥抄と云、一、又唐詩
を引くとも、是^レも、いづれに、存の世に、詩あり、い^ハ也^ハ。又、
引用するは、最初と云、引用するは、存の世、并、詩あり。

證とありしや、いづれに、○ 類説曰、姜維諸葛亮得^{ニヤニ}母
書、令^レ求^レ當^レ歸^{ニヤニ}。維曰、但有^レ遠^レ志^{ニヤニ}不在^レ當^レ歸^{ニヤニ}。此説
を、出^ルる^ル也。○ 故^レ復^レを^レ引^クて、あ^ハり^ハ也。○ 又説、
わ^ハり^ハ也。唐^ノも、呂^ノ九^ノ也。他^ノ國^ノに^テ死^スる^ル人^ノの^故り^ハ、
い^ハる^ル也。や^ハ事^ヲを^レ向^テて^レ裁^入と^スる^ル也。○ 又、遠^レ志^{ニヤニ}當^レ歸^{ニヤニ}の
二種の藥草の名をとりて、り^ハり^ハ古^ノ方^ノに^テ、
を^レ引^クて、當^レ歸^{ニヤニ}を^レ董^ノよ^リ一^ノ種^ノと^スる^ル也。感情を述べ、
可^レなり。又、旅中に死^スる^ル人^ノの^故り^ハ、
ふ^ハり^ハ也。○ 又、いづれに、
合^スる^ル也。○ 又、いづれに、
合^スる^ル也。○ 又、いづれに、

月ふり。和乎此風歎。徘徊ふりて。却て。必ふ。と。と。と。と。と。
 ○ 白氏長慶集云。古墓何代人。不知姓與名。化為路傍土。
 年々春艸生。是らの侍より棄。神傳句也。○ 句意ハ出羽
 の岩司呂丸。旅中ニ。あづきて。終。一塚のり。に。住む人。と。り
 ぬ。近。近。所。少。も。何。も。も。坊。て。遠。き。境。ひ。乃。人。あ。れ。當。歸。の。名。
 色。今。の。空。と。董。の。こ。中。ひ。て。墓。の。り。に。す。む。人。と。多。り。り。二
 原。に。古。の。を。何。り。え。何。處。は。は。ひ。こ。あ。り。も。名。人。の。も。能。也。
 故。の。人。く。ち。さ。さ。や。遠。志。の。な。げ。い。ち。ひ。や。何。も。も。也。是。と。余。情。
 川。春。を。何。も。の。人。と。惜。い。げ。情。

袋 云此句表ひき春を近江の人とさひりて惜まらばやと云ふ
 分りたりと題し湖水眺望と何れと云哉跡を如く眼を
 此夷江に下りての句に去るは此江の東都よりありて夷江と
 此江の人と惜まらばやと云ふ近江の人と惜まらばやと
 惜むとの作也句面白切字又ハ大槪ハ大廻りかゝりて格乃
 やと云ふも句中ハ慥に切取何れ教奇人のことたりきと略し
林 云愛之年々又もも心惜まらばやと云ふの事も我より云ふ
 は惜まらばやと云ふ情ありやと云ふしりよあや乃句はき妙也可
 考たりや **解** 云翁石山寺の奥幻住菴に在る此とこの門人
 等と春を惜まらば湖水の眺望しは句を惜まらばと云ふ情集何

己一句の情多るといふは、立派に云ふ

説

袋

注一向なる所なり。兒童のもののりぞぬ。林 川句以ても

奇くは、古来より。三月其は詩歌を引合ふんよ。つれの詩奇
とては、春を惜まぬや、あゝ、翁の句。了ん。古来とていふむい
し。あゝも海どるごとし。解 幻住菴少の吟とて海に、あゝ

廉素也。木曾塚の菴よの吟に疑ひる。左記と○春来

抄曰春色やや昔なふ先師（もオ二の證）湖南におりし川妻を近江の

人と情をけふと云句は、大津の尚白、海と川をそあやの人とい

ふんも川妻と丹波の人といふんも同じ事なゆい。一句うり

とえ、いと中き去来汝いふゆ、作らさし、尚白言ふゆ

す近江の人と情をけふ、湖の勝勝たるお、一の垣が、あゝ、いそ
らゝ、春英り、丹波とやわは、り、より、世語向う、あゝ、ま、一、葉
春又近江よ、あゝ、と、んり、より、世感、な、め、く、下、風流、ち、お、の、川、り
其場、く、ゆ、さ、あ、さ、中、き、れ、い、去来、汝、い、風、雅、と、汝、さ、き、り、の、し
と感賞、く、あ、さ、り、か、う、其場、く、下、事、を、知、る、き、也、と、云、○支

考、古今抄、之、癸、句、の、句、絶、り、ふ、せ、の、な、尔、波、小、知、を、め、く、と、也

名、ゆ、及、大、四、一、と、云、云、川、春、乃、一、章、ハ、カ、の、木、曾、寺、の、偶、作、め、く

此、句、も、例、の、如、く、思、ふ、と、情、を、け、り、と、決、定、し、て、平、句、の、難、也、述、れ

け、さ、い、く、情、を、け、る、所、不、可、く、下、段、より、思、を、め、く、と、い、句

外、の、意、味、を、さ、す、命、を、も、た、ま、に、け、句、也、移、る、所、い、り、を、思、ふ、可、し

（もオ二の證）
木曾寺の偶作めく
本名義仲寺也

鎮詞の法をうへ平此數詞よりいへるに却て俳諧の巻節も
 云へきゆや去りゆく舟人色し出格の常蛇の法も似たりして常通
 の人におそくもきせと云ふ○路通る芭蕉翁行狀記云元禄十七年
 文月十日も色てききりに父母の音もつらとてや舞ふこの秋是
 氣城よ風の青もこぼりぬれも桃尻のこせん方かくとあふし
 又伊賀乃る人かこしるもくもくといけりりも栗津の菴と云
 春志つらくやまらひなまよと云ふ説はらく梅どろふ往古木曾寺よ
 翁の艸屋ありて菴仲乃墓と云ふらりせりぞありけり前ふ
 引とらんの去來抄柳の句詠よと木曾塚の舊艸と云ふらり木曾を
 のおれ乃屋の葉移と云ふ事也との比の吟よ本意どのと云ふら

ありせの葉もよと云ふらりハ即ち菴也菴城存本草云に竹の
 夫る死て後南の岡へ移して一人の乃者すといけりも後寛保
 年中存の店主咄道和尚造營して今ハ黄檗派乃一字と云
 たりかりとて寺号ハりもれり然るに爰に後世よつりては
 よしとらるるゆき事ひらり有寶曆のけりめの年雲裡坊杉
 夫發起してかの石山乃奥の幻住庵のかしらに阿比し推の樹と
 つりてこいび推おしはらび移してゑて蘇の庵れ高地へ又あつた
 よ庵をつらとて是をのら此幻住庵と呼本意今蘇の石牌
 とありていふは是等の本庵なり知をなき事とてさて世よ木曾
 寺といふは詠とて蘇城存のゆとのにそるえらるる多し全く世

の時すべし。世店有りて。けり春の吟も。此店少の事有りけり。此一件ハ。義仲寺の住職より人。雲裡坊と親しく。同者より。武藏より。りて深川少住。名ハ陶雅梅月坊と号し。陶雅予ハ。りのかゝるま。其證據ハ。一々ハ。實に記も。支考ハ木曾寺也。此偶作ハ。記も。疑ハ。是才五の證。○湖水眺之の題ハ。つきハ。一の師持也。略ハ。石山坊の幻住庵ハ。紫式部ハ。源氏書乃りし。所より。遥ハ。一里も。や余も。山坊の。其より。湖より。乃又。亦ハ。あり。わづら。中。陶雅中。又。源氏の。間と。云。湖より。又。源。一里。か。山の。岨へ。出て。舞臺有。そ。湖。水。満。く。り。け。風。系。猪。も。り。と。け。石。へ。出。く。は。こ。あ。う。の。巻。乃。顔。向。

う。み。ら。う。う。う。う。木曾寺ハ。湖。有。亦。と。あ。へ。て。そ。あハ。市店も。穢。う。い。湖。有。と。又。う。う。の。吟。疑。ハ。今。ハ。市店亦。く。さ。う。え。屋。う。て。湖。有。及。中。陶雅ハ。竹。阿。も。相。滑。り。り。夢。ち。石。山。奥。幻。住。庵。う。の。作。と。之。も。全。ハ。の。誤。也。予。六箇の證を。出。し。訂。之。○。源。齊。公。け。ら。苗。の。事。先。達。の。説。を。舉。し。い。は。さ。し。也。和。平。少。也。連。歌。め。て。さ。ら。け。は。上。よ。そ。云。抱。字。さ。う。ハ。必。し。も。並。也。是。い。き。も。り。て。け。り。故。ハ。一。々。ハ。ハ。隨。分。く。留。り。結。く。う。意。を。け。き。く。す。也。一。る。と。あ。ハ。ハ。て。上。へ。及。つ。と。あ。ハ。ハ。及。ら。ぬ。と。云。事。ハ。ま。い。り。る。と。あ。ハ。ハ。一。々。ハ。流。し。て。け。句。ハ。あ。て。面。白。く。思。つ。と。ま。此。句。大。回。ハ。結。解。ハ。い。つ。の。後。

くろと云麻の解ゆしつあく面白くしつり予按さころを
もふよにあふ人のくそ。惜しくくそと云んぬ。こそい。句の中
にこめと云ふる。死と思ひゆりぬ。さすけ。又けちも。おこ
最初にわらぬ。ほと支考。評美し。つら。小なり。ゆさ
知べう。は。乃。む。このむ。け。と。い。最初のみ文字。な。を。ほ。く。支
考。ふ。と。う。乃。の。と。出。せ。一。類。ひ。の。ま。く。わ。さ。い。此。句。の。け。さ。の。
また。ぐ。い。わ。も。知。べ。う。は。大。ま。り。の。り。げ。め。此。句。の。あ。り。ぬ。し。
予。も。ゆ。り。い。し。是。れ。も。心。を。ゆ。り。し。心。切。と。す。金。き。小。や。先。達。の
意。押。し。あ。り。と。い。ふ。○。句。意。ハ。古。今。抄。の。云。ふ。く。心。の。あ。り。し。ゆ。り。
人。と。云。ふ。事。で。惜。し。わ。ふ。身。此。人。と。い。ひ。し。げ。ん。命。ま。ふ。く。湖。あ。下。

風景でもふあふ。と。平。ふ。も。あ。り。ゆ。め。を。れ。さ。し。き。く。を。れ。と。い。ひ。
つ。ら。ゆ。り。い。し。つ。か。り。き。り。と。や。も。此。俳。友。門。外。の。う。り。き。
一 藤乃、麻ハ、げ。う。り。野。中。の。日。し。げ。い。

長 云是世中の目彩し藤の飛揚さるる。いふ。こ。こ。に。我。成。て。い。つ。人。の
の挨拶也。我山野と吟りし。胡蝶の金を。を。喜。む。し。の。ま。屋。う。ら
幸世人の情わらえ。れ。と。い。ひ。野。中。の。日。彩。と。藤。の。ま。は。ひ。さ。ゆ。と。是。う。さ
挨拶也 **林解** 世句を。出。し。候。

説 此注又葛と邪妄。正統の解。を。あ。ら。わ。す。む。ゆ。い。し。つ。ら。ゆ。り。し。ゆ。り。邪
推也。初草の。う。り。し。溜。り。は。逐。一。に。け。も。ほ。の。害。と。い。ひ。れ。ゆ。さ。

色ハ持^りた^りを^し記^す。○十^ハ十^ハ接^抄と^るる。あ^らむ^まい^は。慥^らら
 沈^み跡^を一^は是^暗推^也。又^跡を^我小^たと^るる。入^りか^めし^迂遠^也。
 也。さ^ら何^んと^い。一^句の^仕立^を。わ^らけ^り少^しハ。心^を。深^く。別^く白^也。
 作^り何^を金^き事^也。○按^じ。笈^{日記}云^元祿^七年^前の
 五^月尾^張の^園小^入巴^夫亭^画讚^四幅^三聖^人圖^盤齊^背面^の
 像^菊花^の蝶^題。二^句雲^雀野^中の^日陰^也。
 謹^りり^と。暑^暑の^日乃^句棠^也。○句^意ハ^推也^を。小^りと^るる。跡^を。
 幽^深の^ら。春^の日^かれ^跡づ^の。庭^にわ^らり^らる。の^こに^けて^あふ^一つ
 目^よ。ま^ま家^りの^さな^きよ。跡^をお^く。あ^らむ^まい^は。げ^の。こ^を。
 う^よ。野^中の^日陰^也。又^地の^句。凡^夫の^眼よ。又^ある^所の^句。

後^照り^流る^る。後^妻の^ま益^乃風^傳。言^外の^態情^のあ^らむ^まい^は。
 屋^一。○澹^水云^世句^り。夏^也。笈^{日記}も^五月^と何^も。
 夏^乃跡^也。句^中何^も。炎^暑の^磨跡^よ。深^のの^句。げ^の。
 日^陰の^句。何^も。暑^苦な^格。あ^らむ^まい^は。け^後も^あら^む。
 五^月小^棠せ^り。題^も妙^中の^日影^と何^も。お^のづ^ら句^中に。
 炎^暑の^情の^句。自然^也。夏^乃句^と。人^の罪^のの^句。あ^らむ^まい^は。
 に^春小^入の^句。あ^らむ^まい^は。

棠^も。け^り小^花又^ら何^も雀^のか



云此句小吟句と云我似て燕雀のらいつれ少くして天地のる也

一箇の葉畑は亦此百にさうなを磨き世界と心であし人生屋を
送るにいとくさく葉畑よと又形ある若くは我は此非をうり
そくの句也 **林** 云西川のさふも若くはあつらふ田かあてまうすいも娘
魚少とくく陸の翁も西行のさまう形とくも曲をうらやまれまう
説 是又しひのうらうらつげん入やうらり翁の句うに家法
親忠ばうり次ど會きや句選もも外の諸集うも吟り
の類えくも是亦法の人のうらう類の翁一可くは形
をうりてさうら神の葉う又下子の夢を所し翁の所
真感偶の句あまのり初單此事をうてソよ翁うす又
葉はうらて天地とらう心でやうすははうらう何ぞ

さうさき文と葉やうらうら心とらうらあはらうと
うのれきうらと心葉やうらうら清算也とらう
翁をうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
やうらう言法始終貫通もぬし **林** 葉もつらうらうら詩六
空院法師あつらうら一字もたがうらうら杉雨知はめい何うら許六
のうらうらもあはらうら古人の説を盗いん心黒きとらうら
あはらうら **○** 句意らあはらうらうら海もはと入らうら句あは
雀の舌ごうらうらうらうらうらうらうらうらうら
梅ふーきのうらうらうらうらうらうらうらうら

然云此句題梅林とあり然もは梅の白く咲く時を以て
足や好む林和靖と云ふはあはれももろきことなり鶴
斗の多きいまはや鶴を畫すなりと訝ふ所の句作也

○說梅林の題句選少となく、其外諸集と又何とぞ、是も梅
小好事の人乃能多りありわ、世注の素樸なりて、何れあり

○本末抄曰古藏集に此句をあげて先師のしとるしと
し是も多し梅の心をよきまゝに、蘇し世句追従ふ似たりと
秋風の洛陽の富家よりあり市中を去り山家と閑居しと
詩并をたのし騒人たもすことすて果にむらさきくに
うて風情閑居の人と思ひ給ふ、なけ作あり先師の句は傍

論か評者のいよ傍偽りなりそのちまはく招けりしは
梅よ欺く命し知ろのうと又句時此梅くよき其代乃
風し子亥一巡の海海に格ぶるなりと○筆談曰林逋
隱居孤山常蓄兩鶴縱則飛入雲宵盤旋久復入籠中
逋常泛小艇遊西湖諸寺有客至童子出應門延客開
籠縱鶴良久逋歸嘗以鶴飛為驗け故事を好すえははの
秋風で林和靖くすもくく句を今秋風よ招くも
よりえりむ梅もさかりふ、閑居のよはりけけぬも
かの林逋のたぐひあやめもあまなうら、鶴乃又くあはりや
きりよあり、鶴を畫すなりと訝ふ所也、秋風を林逋に

比き〜
不肖のよふ。妙をつく。風雅のつゝ。論の説も。我と云ふ。拙身の。よ〜。不。か。人。を。思。ふ。金。

やまづらきてのやらゆ〜 莖草

袋

云此句大津(出)道山終てと云ははや字眼也

〜のハヤと云ふ。莖の〜。旅の〜。林解 此句を出る

説 此註似非也。大津(出)道山終てと云ははや字眼也

〜のハヤと云ふ。莖の〜。旅の〜。諸集よえる

○去来抄曰湖春云す〜

巧あり〜。去来曰山終すみ色でよ

色し〜。莖菜山終すみ格と定ま〜

山遠赤人。何々の神に。堀河院御時。右郎百首。匡房

られぬ。解おも及んぬゆゑなり。

説 袋の注。鏡の宿乃吟とい。入かか也。又翁自己に。徳よまらざる乃
ん。蒼やもか。何りて無徳也。人小知れども。ふに恨む。
けんまげくも。何りて。いさげのぬく。あつて。高注の甚く。きまの
ゆり。必不可用也。林 一説の文。あつて。例の口中に。含糍のいし。
増し。丹を。読と。敷の梅を。月の鏡乃。と。え。はか。む。
つ。く。入かか也。竹田の。か。り。を。え。う。ら。す。不。可。信。用。又。丹。や。
あ。の。の。を。り。て。ま。の。月。を。読。と。ま。い。い。あ。る。移。ち。み。や。や。
け。あ。一。向。か。ち。り。旧。定。あ。む。し。と。い。や。も。千。し。ま。や。の。こ。を。を。
お。用。い。く。も。あ。や。ら。ぬ。又。貞。享。式。で。り。と。い。も。か。の。文。

少く。句讀の。初。單の。年。よ。底。ど。又。金。殿。樓。閣の。選。以。字。何
まの。字。あ。や。檢。校。も。せ。印。版。麻。末。也。又。け。句の。姿。へ。句。讀。也。と。
さ。ら。く。い。ぬ。し。姿。と。句。讀。の。殊。な。る。た。が。い。也。文。辰。一。つ。て。
正。き。可。を。え。も。ゆ。ま。を。迷。り。す。の。媒。あり。○句。讀。再。按。増
韻。曰。凡。經。書。成。文。語。絶。處。謂。之。句。語。未。絶。而。點。之。以。便。誦。詠。
謂。之。讀。一。句。の。中。長。く。い。息。の。續。り。さ。る。ゆ。ゑ。と。い。ふ。也。○支。考
が。古。今。抄。の。う。ら。貞。享。式。と。曰。句。讀。の。切。い。押。字。抱。字。の。ま。き。し。
り。く。讀。あ。よ。う。り。て。す。く。か。ん。ぬ。い。ま。ひ。て。句。讀。の。別。名。も。と。い。
と。今。う。く。一。名。を。え。ら。る。此。外。ち。心。切。の。類。も。あ。り。す。大。和。り
讀。癖。の。極。實。と。い。ふ。り。て。句。讀。の。類。説。に。あ。る。と。

蘇翁の蘇旦小

人ゆえぬほろやわみのうらな梅

こつふ句のうらりりる人そ初流のこようありしる方の句讀のほ
 うらひ感懐の咏嘆の吟夢のいと素堂隱居の海を
 しく思へし句讀の具合めして更に踏識せしらんや
 さしはうりりるれ方のうらやうらうりりる人をや切アえ初
 流の上らんしくはしくつひといのうらなものをとつたまごよ一息
 に流しるる一首でうら口さ息ぬよむいゆりらんあえうらあ
 ごとやにこそ吟夢の咏嘆もこつらうらりと古人も海一垂れ也
 此句のこのごころ人ゆえぬほろやと切え流のうらな梅と二口

よよし句讀也かすよよわは句の意のうらりとわりふらも
 素堂もそとてたうら金てつる也能く考へ味ある
 三考とるふ俳句に句讀の名目古よりなきも也全く支考の
 作りし道を弘ふの一助ありとせしゆや去那のうら世の好ま
 の人は考にすげつてあつて何れゆゑ法格を作らざるも亦支
 考を的とするこつらうらなつて千梅の論せしゆく弘しるも
 支考ありて害もるるこ亦支考のべし世句のやいとるこ亦か
 げ古法にうら中のや也と知るし支でよありげも句讀の名
 詞を流會せしは後るまはし句讀のふ名もよらんこ亦て己
 が罪をわがふし一戒なり○此句意はななの人よあつてゆゑ

のうらら小鶴つけし。梅とお解。く女。読のありあへる。あま
 はいぬ人少きわきて。澗。く。口惜しむ。と。や。と。死。の
 か。と。比。し。の。吟。や。た。わ。い。せ。乃。心。の。梅。より。も。一。層。々。清。潔
 ぞ。し。ひ。ぬ。又。た。読。の。裏。し。何。梅。い。人。と。い。か。春。さ。り。と。の。し
 も。す。由。自。己。よ。推。て。さ。ふ。も。ふ。む。つ。し。き。や。教。の。毒。も。し。ハ。史
 而。不。常。也。○ 読の裏に梅のすの原信の家集もあつた。の。か。
 み。と。よ。ま。よ。か。か。も。有。ら。ら。ま。と。伊。勢。が。家。集。の。読。の。う。ら
 小鶴のうららを讀つて。うらら。うらら。ふ。と。せ。も。ふ。う。新。ら。ん。し。し
 め。と。し。あ。つ。の。う。ら。ら。と。う。ら。ら。今。後。何。う。や。よ。け。か。や。平
 操。と。せ。ら。ら。い。め。い。り。し。祥。も。この。ま。く。か。ま。い。し。い。ま。し。讀。表

のちでるうらら。や。り。し。は。お。ひ。り。又。梅。苑。読。し。ん。古。物。の。あ。ま
 よ。梅。苑。の。形。さ。し。も。有。よ。の。あ。ま。後。の。う。ら。ら。古。読。も。け。や。ま。
 う。ら。ら。か。や。物。あ。も。つ。う。ら。ら。さ。く。雪。雀

解

但下巻 附録に出 社日記おんむらり。わ。た。あ。つ。た。而。公。の。う。ら。ら。つ。つ

ともなきらん。あ。と。う。ら。ら。こ。り。り。え。再。兼。乃。於。骨。を。よ。う。か。へ。し。

説

笈日記 下巻 云 系中や物うらら。つ。し。ひ。く。ま。を。花。夕。う。ら。ら。の。ま。じ。

此二句ハ西行の弁小心性。さ。ま。う。ら。ら。と。し。し。を。類。あ。く。人。へ。う。ら
 や。り。は。た。ら。な。さ。ら。な。い。け。な。い。の。吟。也。と。わ。ら。い。し。古。言。と。し。し。恒。例。也。社。日。記。の。う。ら。ら。の。

近來の古めく古嵐雪うさる依りのよのりど。沈むるや。予
今改。笈日記の流をよして。初草の。示もの。抽少をつすの草
ひを花の形容。目新し。夕も新あを。ハタ新も。新魚も。つり
漁とつよま也。

増補

さびーさやとのあさり地りすささるよ

説 此句の前身書世の人のあさる可也。○清少納言記一名枕草子 木ハりす
ハハの本。びせらるも又。まご。清蕨よまよせ。ゆる人あよ。よとよ
うんぶくげよ。ちらくく。いど。何の心を。つすの捨の本と。つけらん。

つらき。ひきさのひそとさりや。唯まとのわらち小のりんとさよま
らまのりくか。いとさ。○彦根孟遠が桃の枝。菊阿口捨ふと。げわ
すハ捨のより。清少納言枕草子。世俗よ。何を。あつよと云本也。
捨ふは材用よ。つよのいし。若也。金峯山よ。さより。世人よくまのり
草也。すいとも翁の句何をりて曲と。なる。少さる。布さる。一。珍也。も
のこ。出。ふ。い。つ。と。は。く。り。圃。あ。り。て。翁。の。句。と。は。い。の。何。の。あ。い。れ。も
く。只。面。白。き。や。そ。ん。色。蓮。下。こ。い。名。の。放。る。も。未。俣。の。作。者。奥。で。搜。さ
る。一。て。す。ゆ。一。並。り。の。本。意。あ。り。き。事。也。許。六。情。誓。信。く。云。季。中。く。季
の。名。合。色。い。上。の。の。作。あ。り。翁。の。句。け。合。あ。れ。ハ。一。句。も。あ。り。一。そ。う。け
合。と。云。ハ。花。よ。あ。ず。を。ら。よ。の。あ。を。け。合。は。と。之。り。此。句。花。の。語。あ。り。

蘇向清が細言より詠り句はきい撰集抄より詠り撰集抄
 小之中勢元補の扇の年二首より詠りよふ扇婦の勝小
 定りとそ外の中より詠り扇もいむのあつりの深山本公比
 て心よりとる人もふりつりといひりけ細より詠り一句は神一也
 句はあは口傳を交へ一は師説也といふ○句選よけ句の流も
 二日ハもふ書入淋れやらすからよふもえいりけ句意別ちや
 俗人からとつと記さる説此句意の前書ゆくりまらうし盟ハ
 くこつひつといふもあつぬあつりといふも一句やふれを爰は
 寛優よえりれ只志のつりりの深山本の淋れきよのえらふ正
 直なる扇一又日ハもふ書入といふあすからよとつる者へけてよ

の日も赤着ぬふりもあつぬあつりといふも一あすからよとつる者へ
 との句意し平拙なるに日ハもふ書入といふも一風骨ひきりり
 最初の吟句も扇一はよ淋れもや花のつりりと調練一へ出言よ
 風骨も一翁の句が家業のまも有るべしや極のりよの参
 へる世場翁のほよとよの愚索といふもつりといふも事多岐なれ
 び略と○今市店ハ瓜の下にいへく捨の葉多くあすからよの系
 也捨葉とまよぼげつりといふあすひの葉の系ハちとつりもあつり
 え日ハ回毎の日ころそと一りれ

説此句諸集よえ日みと出せり諺なり信及の鶏山が又のりし

おし、翁の短冊より。元日かゝる中、庭塚集よ記あり。又同邑の岷雪翁の自画讃也。奥良の友へりて也送る。句も元日かゝる。減雪みつゝ。石摺よくく刻いて並けり。句も此月の信濃國更級郡の月れ名所。世の人向まぬく。此の事也。○句意の回く。あ月で思ひやりえ。元日の神日。田毎の旭とて。元はほくく。金持かき。了。書寫の誤へ奉へり。○説 世よえ侍。能順と翁と連俳の話あり。的

連歌

秋風ハす秋あきしるゆゑ金ふ

俳諧

秋風よす秋あきしるゆゑ金ふ

是るれりつこよ。元日かゝ。好まの人さ。ゆゑら。元日ハあし

さむむけ句面白く。いふこと。元日一日は。又いふこと。連歌より。ふり。よと。俳諧ふ。ふ。ふ。ふ。右の層の白。奉崩の侍。夢を。毎門。中。中。口。信。と。海。口。使。也。

芥焼やすと梅の田井乃ら

説 孟遠が。梅の杖少。廿句ハ奉白集より。えゆれり。すそ梅の田井の芥とら。一集の内よ二。あ。ゆ。り。は。集。を。え。す。す。梅。乃。田井ハ山の裾よ。田井也。又菰波根の裾ハの田井と。う。常陸の音名。あ。ゆ。り。○笈日記 下巻 云け句ハ。初芥。こ。ゆ。を。え。ゆ。速。う。た。ゆ。ん。と。喜。け。ハ。只。ゆ。ハ。や。り。と。芥。句。と。り。と。翁。ハ。あ。ま。い。

ちよりりかほりやまらも好み多し。縁り梅の田井と。記さるる
 有り。是ハ傳寫の誤加ナリと云々。○堀河院御時百首流記云。支那季
 ちきもこのもそ梅の田井より引つたて田子れはもあへん。さふ苗はるも
 ちりもこ。○又文字。芥搦やと。梅はし。ゆり。花も。誤り。芥焼
 はず。梅の田井に。ゆり。る。さ。る。さ。り。芥焼。あ。し。と。一。句
 乃。安。を。備。ま。り。

日ととせみやこの日。さ。ら。も。も。梅。せ。し。と。み。ら
 かし。脚の借。り。さ。る。人。か。り。ゆ。た。に。この。う。る
 み。ら。の。わ。く。る。と。ゆ。く。と。り。り。さ。る。庭。を。さ。ひ。き。い。し。

ちしこも々々梅のちせう梅
 心

①此句諸集よ。わする。あ。ら。り。さ。し。出。し。句。選。あ。も。門。人。何。し
 み。ら。の。く。ふ。り。さ。る。の。と。わ。む。き。し。と。と。句。を。出。と。深。川。古。杉。風
 而。持。の。一。軸。あ。り。し。今。の。杉。風。秘。藏。も。さ。と。さ。ひ。え。ん。ひ。開。つ。た。翁。乃
 去。跡。あ。し。西。季。の。句。何。り。粗。々。サ。レ。ソ。信。ふ。不。と。た。が。い。何。り。よ。ん。爰
 子。沈。し。出。と。句。選。の。詞。を。も。推。量。何。れ。存。の。人。乃。う。う。と。う。也。と。え
 ち。は。好。に。た。が。い。り。と。い。が。き。と。い。の。翁。在。世。沈。し。妙。し。宝
 也。い。か。い。の。證。跡。と。あ。り。と。い。花。を。た。と。も。金。き。と。也。又。推。量
 ち。か。い。と。い。ひ。人。も。う。り。と。い。ま。も。た。か。ら。う。沈。し。は。推。量

彼と我も。了に。む。く。ら。む。能。れ。め。く。く。を。あ。い。河。が。家。や。り。て。修。を
 情。と。し。ら。ん。や。世。ふ。ら。友。舎。人。あ。く。と。と。誘。ふ。人。や。雀。お。さ。し。家
 風。化。よ。り。て。風。凍。を。感。深。し。近。代。風。雅。の。人。我。を。な。り。て。五
 よ。に。み。ま。り。ま。と。ご。の。み。お。そ。ま。り。ま。り。の。比。し。雀。を。ま。り。ま。り
 む。ら。い。ふ。ま。り。風。雅。却。て。喊。却。の。世。の。あ。ら。む。と。意。味。玄。く
 妙。々。も。無。為。の。徳。と。う。け。し。る。翁。の。い。ま。も。し。か。修。句。と。は
 今。ま。ま。の。編。と。述。ぶ。ら。う。に。あ。り。の。か

春 部 下 終

以上 十有九章

雀翁發句說叢大全卷第二終

